

# PROFILE

## 真鍋 俊也

東京大学医科学研究所  
神経ネットワーク分野教授



平成15年3月に併任していました神戸大学大学院医学系研究科を辞職し、4月より東京大学医科学研究所神経ネットワーク分野の専任となりました。医科学研究所に着任したのは平成13年1月で、2年以上にわたる東京と神戸の間を頻繁に行き来するかなりハードな生活によりようやく終止符を打つことになりました。併任期間中は、二ヶ所で多くの仕事をこなしながらも給与は一ヶ所からしかもらえないという不合理な状況で、体力的にも相当厳しいものがありました。今後は東京に腰を落ちつけて、研究と教育に邁進したいと考えております。

私は、京都大学医学部で学部生時代より、当時、生理学教室の教授であられた久野宗先生を始めとする諸先生方に神経生理学の最も基礎的なところからご指導いただき、神経生理学の研究者としてのスタートを切ることになりました。その後、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校のRoger Nicoll先生の研究室でのポストドク、常勤研究員として海馬におけるシナプス伝達と可塑性に関する研究を行ってきました。それまでは、電気生理学をおもな実験手技として用いてきましたが、帰国後は分子生物学的な方法も積極的に取り入れ、生理現象を分子の立場から理解することを目的にいろいろなプロジェクトを進めています。神経ネットワーク分野は、医科学研究所の改組に伴い新たに設置された分野で、ポストゲノム時代の脳・神経研究を生理学的な側面に重点を置きながら推進することが使命となっています。医科学

研究所では、感染・免疫、癌、ヒトゲノムなどの研究が中心となっており、分子生物学や生化学を得意とする研究者がほとんどという中で、生理学者としての立場から脳・神経研究に貢献していきたいと考えております。現在は、スタッフ、ポストドク、大学院生など約20名の研究室員とともにシナプス伝達と可塑性、記憶・学習や情動などの高次脳機能の分子機構を、分子レベル、細胞・ネットワークレベル、さらには個体レベルなどからの多面的なアプローチにより解明することをおもな目的とし、日夜、研究に没頭しています。100年後でも、あの研究は素晴らしい、といわれ続けるような研究成果が出せることを目標に、個体レベルでの記憶・学習機構の研究成果と分子・細胞レベルでの研究成果の間に存在する大きなブラックボックスを打破するブレイクスルーに到達することを夢見ながら研究に励む今日この頃です。

### 略歴

昭和60年	京都大学医学部卒業
平成1年	京都大学大学院医学研究科修了
平成2年	米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校ポストドクトラルフェロー・薬理学研究員
平成5年	東京大学医学部助手
平成8年	東京大学医学部講師
平成11年	神戸大学医学部教授
平成13年	東京大学医科学研究所教授